

豊能町の教育について

令和2年 8月～9月

豊能町教育委員会



2

1. 豊能町の現状
2. 豊能町の「これからの教育」
3. 豊能町の学校再編

「いなか」の顔と「まち」の顔を併せ持つ



1. 豊能町の現状

3

4

「いなか」の顔と「まち」の顔を併せ持つ

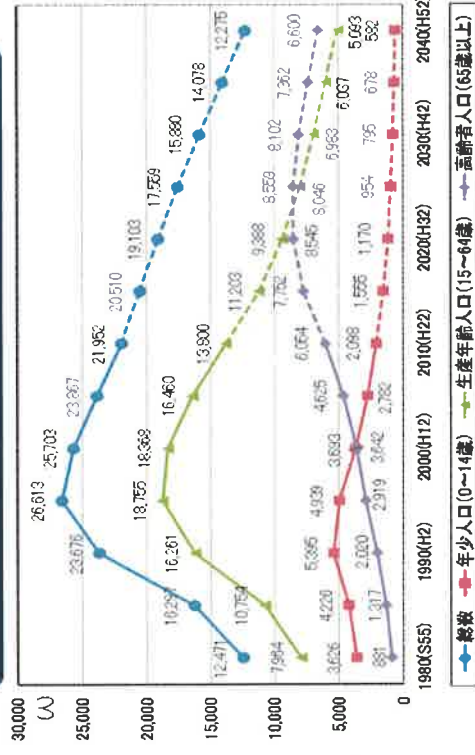


豊能町の児童生徒数(転出がない場合)



	現在	5年後	10年後
東地区 小学校+中学校	216 →	155 →	98
西地区 小学校+中学校	650 →	537 →	367
計	866 →	692 →	465

豊能町の人口推計



豊能町は、これまでの取組みを大切に
 「豊かな自然」や「豊かな人材」などの
 資源を活かした「豊かな子ども」を育てる
 新たな学校づくりをめざします。

豊かな自然



10



豊かな生き物



歴史・伝統文化



豊かな人材



12

豊能町の保育所・幼稚園・こども園



吉川保育所
ひかり幼稚園
ふたば園



13

豊能町の小学校



東能勢小学校
吉川小学校
光風台小学校
東とぎわ台小学校

14

豊能町の中学校

東能勢中学校
吉川中学校



15

これまでの各校のすばらしい取り組みを継承し、
子どもにとって魅力ある新しい学校づくりを
推進していきます



16

2. 豊能町の「これからの教育」 教育のランドデザインについて

令和2年3月策定

17

豊能町保幼小中一貫教育
ランドデザイン

2つの柱

- ・保幼小中一貫教育の推進
- ・地域とともにある学校づくり

19

豊能町保幼小中一貫教育
ランドデザイン

＜めざす子ども像＞

○豊能町に誇りをもち、自信をもって社会を生き抜く子ども

＜進め方＞

○地域・保護者・教職員みんなで責任をもって
一貫性・継続性・発展性を大切にした教育をめざす

18

今、学校は

9年間をつなぐ教育＝

小中一貫教育

(全国の8割以上)

豊能地区(3市2町の全てで実施)

豊中市 59校

池田市 14校(義務教育学校1校含む)

箕面市 22校

豊能町 6校

能勢町 1校



20

保幼小中一貫教育の推進

- なぜ見直しが必要になったのか？
- ①心身の発達の早期化
- ②小1プロブレム・中1ギャップ（いじめ・不登校等の問題行動、学力の課題）



従来の6－3制

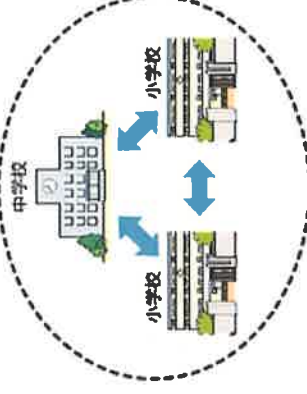
→新しい学びの段階(9年間の区切りを検討)



21

小中一貫教育の現状

施設分離型小中一貫校



施設一体型小中一貫校

小学校・中学校



22

保幼小中一貫教育の推進



学級担任制		教科担任制	
基礎・基本の土台づくり	基礎・基本の習得	既習内容の活用	発展的・応用的な学習

23

保幼小中一貫教育で見込める効果

「小学校＋中学校」

→ 一定の学校規模の確保

「小1・中1ギャップ」への対応

→ 不登校児童生徒の減少

15年間一貫した教育

→ 学力・体力の向上

子ども達の変容

→ 「あこがれ」「いいお手本」

教職員が同じスタンスで

→ 子ども達を支援・応援

24

平成28年度より取組んできた内容

- ・ とよの学（ふるさとを学び）、キャリア教育の研究
- ・ 授業スタンダードづくり
- ・ 授業公開カレンダーづくり
- ・ 家庭との連携シートづくり
- ・ 保幼小連携、保幼中連携、小小連携、小中連携

25

義務教育学校とは



26

①確かな学びと豊かな心

- 主体的、対話的で深い学び
(アクティブ・ラーニング) の実現に向けた授業づくり
- 学力・体力・生活調査の検討・実施
「テストの日」検討
- 教育のPDCAサイクルを大切にした取り組み
「漢字検定」「英語検定」の実施

27

具体的な教育内容について

28

相互乗り入れ授業



29

②グローバル人材の育成（1）

- 豊かなコミュニケーション力と言語活動の充実
 - ・小1からの英語活動(Dream府教材の活用)
 - ・朝読等の読書活動の推進

- 系統的・継続的なキャリア教育の推進
 - 豊能町に誇りをもつ児童生徒の育成
 - ・「とよの未来科」の設置

30

②グローバル人材の育成（2）

「とよの未来科」等を通じて地域の方々とともに

- ・豊かな自然や伝統文化、歴史そして産業に触れる、学ぶ
- ・豊能町のことについて考える、まとめる
- ・自分のこと、友達のこと、そして自分や町の将来を考えると共に、国と世界を考えられる眼を養う。
- ・考えまとめたことを、地域の方々との意見交換し発表する

31

今、準備していること



とよの未来科

～とよのを愛し、とよのに誇りをもつ～



32

③家庭での習慣づくり

○学習習慣

→家庭で学習する時間→1日〇分（1年）学年×10分

○生活習慣「早寝・早起き・朝ごはん」

→テレビ、ゲーム、SNS→1日〇分

○読書習慣

→「目標」を決めて読む→1か月〇冊

※○印はお家の人と目標を決めて取り組む

33

④家庭・地域・学校の協働

○学校運営協議会の設置

令和2年度～ 東西地区で準備会

○学校支援地域本部との連携

○子ども達の居場所づくり、家庭との連携

放課後教室・土曜スクールの検討

34

地域とともにある学校づくり

コミュニティスクールの考え方・進め方

35

地域とともにある学校づくり



学校運営協議会制度
コミュニティ・スクール

地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりを進める

地域教育行政の組織及び運営に関する法律の改正（平成29年3月）
→ 学校運営協議会設置の努力義務化（令和4年まで）

36

地域とともにある学校づくり

- なぜ地域とともにある学校か？
- 様々な教育課題 → 「学校だけでは解決できない」
- 地域ぐるみで応援しよう！



37

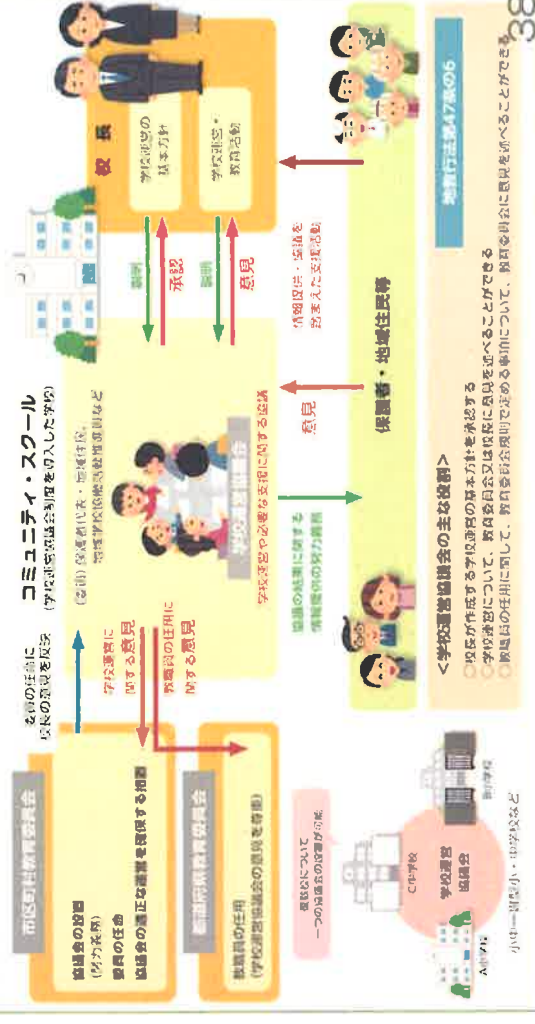
これからのスケジュール

- ・令和2年秋 準備会設置
- ・令和4年4月 学校運営協議会スタート



၈၈

ユニティ・スクール（学校運営協議会制度）の仕組み



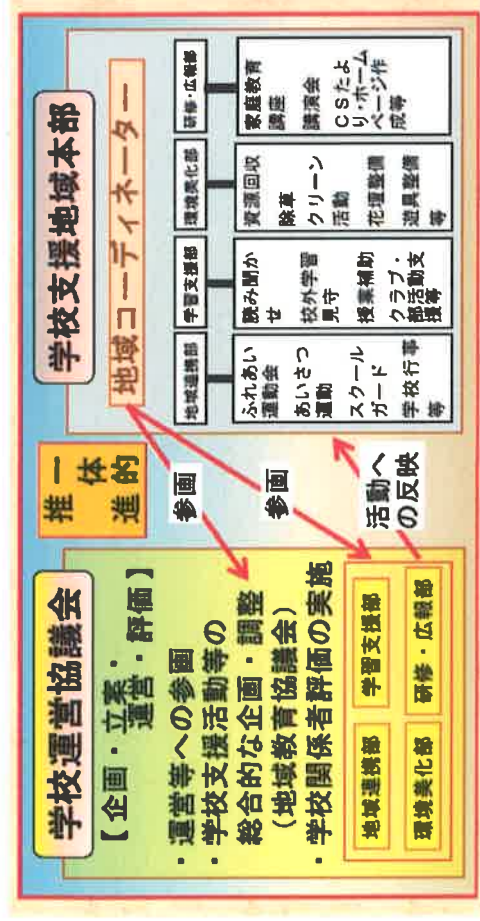
33

学校運営協議会の機能を充実させるために

- ①熟議（熟慮と議論）
 - ②協働
 - ③マネジメント
- ・「参加」から「参画」
 - ・「支援」から「協働」



40



41

コミュニティ・スクールの導入で見込める効果

- ①保護者や地域住民等の理解と協力を得られた学校運営
- ②子ども達の学びや体験が充実
- ③教職員が子供と向き合う時間の確保
- ④地域ネットワークの形成・地域の課題解決
- ⑤保護者や地域住民の自己有用感や生きがい
- ⑥より良い学校・より良い地域づくり

43



42

3. 学校再編について

44

全国の状況

- ・全国の市町村 …… 1724
- ・半数余り …… 少子化による
学校の再編が課題
- ・小学校＋中学校 …… 30,000校
- ・1年間 …… 500校減少



45

再編・統合の基本的な考え方

(文科省の手引きより)

- 児童生徒の教育条件を良くする
- 地域状況に配慮する
- 小規模校の継続、学校の統合等は
首長の判断

46

再編の検討の経過(1)

- ・平成31年3月 塩川町長就任
- ・令和元年6月
「東西にそれぞれ小中一貫校を設置する場合の
課題と方策」について町長から意見を求められる。
8回、意見交換や学習会を開催する。
8月より、先進地視察も行いながら検討を進める。
8月より、「豊能の風」を町HPに掲載
- ・令和元年11月 検討結果を取りまとめ町長に報告する

47

再編の検討の経過(2)

- ・令和2年1月8日 総合教育会議(1)
「東西にそれぞれ小中一貫校を設置する」(案)が
町長より示される
- ・令和2年1月 第1回保護者説明会
- ・令和2年3月議会 もう少し時間をかけて検討すべき
- ・令和2年4月～7月 町長と教育委員の意見交換

48

再編の検討の経過（3）

- ・令和2年8月12日 第2回総合教育会議

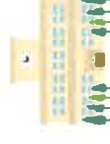
東西それぞれに小中一貫校として再編する
令和8年4月、義務教育学校としての開校をめざす
小中一貫教育はできる所から進める



49

東地区の義務教育学校

- ・設置場所……………東能勢中学校の校舎・敷地を活用
- ・開校時期……………令和8年4月「義務教育学校」として開校予定
- ・改修方法……………教室、トイレ、階段等を改修、一部増築
- ・進め方……………①令和4年4月に5、6年生を中学校へ
②令和8年4月に1～4年生を中学校へ
- ・小中一貫……………「中期」に焦点をあて「教科担任制」「50分授業」
「5年生からの部活動」等

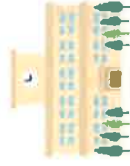


- ・再検討の目安……………複式学級が2つ

50

西地区の義務教育学校

- ・設置場所……………吉川中学校の校舎・敷地等を活用(調整池を含む)
- ・開校時期……………令和8年4月「義務教育学校」として開校予定
- ・改修方法……………現校舎を長寿命化改修
- ・進め方……………令和8年4月に3小1中を再編・統合
- ・小中一貫……………「少人数指導」「とよの未来科」「授業スタンダード」等の研究を進める



- ・こども園……………設置場所等調整(検討中)

51

東西のよさを活かした教育

- それぞれの地域に応じた特色ある教育の推進
- 東西でスカイプ(webを通じて映像送る)などを活用した授業等の推進
- 東西の交流
 - ・校外学習、体験学習、児童生徒会サミット、行事等の合同企画実施
 - ・部活動の合同練習等

52

教育環境の充実

・小中一貫教育に必要な教室や施設設備の整備



53

地域とともにある学校づくり

「歩いて通える、学校が近くにある」

- ・子ども達への負担、時間的な制約がない
- ・地域の方々と協働した取り組みが進めやすい
- ・東西の交流を通じた取り組みを計画的に進められる
- ・先生の異動が町内でできる
- ・防災拠点としての役割が大きい



54

児童・生徒の減少への対応

(できることから進める)

「町長、町長部局との連携を通じて」

- ・「魅力ある学校園所づくり」を推進
10年後一東100人台、西400人台維持
- ・様々なイベントや行事を通じて、
交流人口・関係人口を増やす
- ・子育てしやすい町づくりを進める
- ・高校生や若者と連携した取り組みや支援



55

すべては、豊能町の未来を担う

こども達のために



56